

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal prenatal and postnatal psychological distress trajectories and impact on cognitive development in 4-year-old children: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親の妊娠中・産後の精神的ジストレス(不安・抑うつ)と4歳児の認知発達

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Developmental Origins of Health and Disease

年: 2024

DOI: 10.1017/S2040174424000011

筆頭著者名: 西郡 秀和

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、母親の妊娠中・産後の精神的ジストレス(不安・抑うつ)と、その子どもが4歳時の認知発達を検討しました。

方法:

エコチル調査の詳細調査の参加者 3,287 組の母子を対象としました。不安・抑うつスクリーニング法 Kessler 6-item psychological distress scale (K6) が5点以上の場合を精神的ジストレス(不安・抑うつ)としました。母親を妊娠前半期(中央値: 妊娠 15 週)、後半期(中央値: 妊娠 27 週)、産後 1 年、それぞれの時期について、K6 が5点以上であるか否かを調査して、その組み合わせで 8 群に分類しました。出生児が4歳のときの認知発達は新版 K 式発達検査 2001 を用いて評価し、母親の精神的ジストレスとの関連を検討しました。

結果:

母親が妊娠前半期、後半期、産後 1 年いずれの時期も K6 が4点以下であった群と比較して妊娠前半期、後半期、産後 1 年のいずれにおいても K6 が5点以上であった群は、男児では言語-社会領域(言語認知発達)のスコアが有意に低いことがわかりました(偏回帰係数 -4.09)。一方、女児では有意差がありませんでした。妊娠前半期あるいは後半期あるいは産後 1 年のいずれかの時期において、1 でも K6 が4点以下であった群は、男女児ともに有意差はありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

海外の研究でも、母親の妊娠中・産後の不安や抑うつなどのメンタル不調は、その子どもの認知発達低下のリスクとなることが報告されていますが、どの時期のメンタル不調が子どもに影響を与えるのかは一定の見解がありません。本研究の結果からは、母親のメンタル不調が妊娠前半期から産後 1 年にかけて継続してあった場合、男児のみ言語的認知発達低下のリスクとなる可能性が示されました。これは、妊娠前半期にメンタル不調を発見し、産後 1 年までには改善させることで、子どもへの負の影響を予防できる可能性を示しています。研究の限界として、母親の精神的ジストレスは自記式調査に基づいており、医師に診断されたものではない点があげられます。

結論:

妊娠前半期から産後 1 年にかけて、持続的に精神的ジストレスがあった母親の子どもは、男児においてのみ言語的認知の発達が低いことがわかりました。ただし、妊娠前半期、後半期、産後 1 年いずれかの時期において、1 時期でも精神的ジストレスがない場合では、男女ともに4歳時の言語的認知発達に有意な低下はありませんでした。